



お話の学習指導案



教育目標

題名 ・ いしゃ(医者) きょ しゅん (ホ・ジュン)

年齢 ・ 児童(6~9歳)

主題 ・ 目標: たみたちのために‘とういほうかん’ (トンイボガム) を書いた、いしゃ (医者) きょ しゅん (ホ・ジュン) のよい行い (おこない) をまなぶ。
・ 主題: よい行い (おこない)

キーワード ・ よい行い (おこない), きょ しゅん (ホ・ジュン),
とういほうかん (トンイボガム), でんせんびょう,
てんねんとう (天然痘), かんいがく (韓医学)

韓国文化 ・ 目標: ちょうせんじだいのでんせんびょうについてしり、こわいでん
せんびょうをよぼうするほうほう (方法) をしらべる。
・ 要素: ちょうせんじだいのでんせんびょう
【てんねんとう (天然痘) : ママ】

韓国語

- ・ 目標: ほじょけいようし (形容詞) をもちいて、なりたいきもちと
したいこうどうをひょうげんしてみる。
- ・ 単語: 싶다 (したい)
- ・ 表現:
의원이 되고 싶다. (いしゃ (医者) になりたい。)
강아지를 돌봐주고 싶다. (いぬのめんどろをみたい。)



口演 活動内容



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、こんにちは！
みなさん、こんにちは。わたしはみなさんにたのしいお話を‘○○○’、
うつくしいお話のおばあちゃんです。



題名 を教える

今日、おばあちゃんがするお話は、タイトル、さっさと出てこい！

“いしゃ(医者) きょしゅん(ホ・ジュン)”です。

みなさんは、おなかがいたいと、どこにいきますか？むかしは、今のようにびょういんがありませんでした。そのため、いしゃ(医者)をたずねてはりをうってもらったり、やくそうをちょうりしたかんぽうやくをのんで、びょうきをなおしたといいます。みなさん、からだがいたくて、かんぽういんにいったことがあるおともだちはいますか？かんぽういんでするちりょうほうほう(方法)は‘とういほうかん’(トンイボガム)という本まとめられています。この本をかいた人が、まさにきょしゅん(ホ・ジュン)です。どんなお話なのか、きいてみましょうか？



お話の始まりの歌を歌う

“いしゃ(医者) きょしゅん(ホ・ジュン)”のお話の中へしゅっぱつ！

♪ いちにいさんし！ お話のはじまり！ わたしたちみんながたのしく、よくきいてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？
いちにいさんし！ しゅっぱつします。パンパン～

口演 活動内容



お話を聞かせる

むかし、ちょうせんじだいに、どこかがいたい人をまごころをこめてめんどうみて、びょうきをなおすいしゃ、きょ しゅんがすんでいました。きょ しゅんは、小さいときからどうぶつはもちろんのこと、たいへんでしんどい人を見ると、見のがすことができませんでした。そんなある日、きょ しゅんはあしをけがして、みちばたにたおれているこいぬを見かけました。

“おや、どれだけいたいんだろう？”

きょ しゅんは、ためらわずにこいぬをだいて、いえにかえりました。

“おかあさん。こいぬのあしがおれたみたいなんだ。ておし台にぶつかったのかなあ、、、、ぼくがめんどうをみたいんだ。”

おかあさんは、そんなきょ しゅんのところをかんじとりました。

“そうなのね。ちゃんとめんどうをみなさい。”

きょ しゅんは、こいぬをせいいっぱい、めんどうをみました。ちかいむらのびょういんまで、たずねました。

“おいしゃさま、けがをしたこいぬに、くすりをください。”

いしゃが、そんなきょ しゅんを見てけらけらわらいました。

口演 活動内容



お話を聞かせる

“ここはこいぬではなくて、人をちりょうするばしょなんだ。”

しかし、きょ しゅんはしりぞきませんでした。

“人でもこいぬでも、みなおなじいのちです。おねがいです！くすりをください！”

いしやはそんなきょ しゅんをととてもきにいました。

“たいしたもんだ！よし、このやくそうをつぶして、よくぬりなさい。”

“ほんとうに、ありがとうございます！”

きょ しゅんはすぐにいえにもどって、やくそうをついてくすりをつくりました。それをまいにちこいぬのあしにぬってあげました。こいぬのあしはひごとによりくなりました。

“おかあさん、もうこいぬがはしれるよ！”

おかあさんも、そんなきょ しゅんをほこらしく見つめました。

“しゅん（ジュン）、すべてあなたのまごごろがつうじて、なおったのね。りっぱだわ。”

口演 活動内容



お話を聞かせる

きよ しゅんはそのあとにも、人のびょうきをよくするたべものとやくそうについてかんがえました。そして、けっしんしたように、おかあさんにいいました。

“おかあさん。わたしはいたい人をたすけるいしゃに、なりたいです。”

“いしゃになりたいの？”

おかあさんはたいへんなことだとおもい、ころろがおだやかではありませんでした。

“どうしてもいしゃにならないとだめなの？”

“はい!どうしても、なりたいです。”

きよ しゅんのけっしんを、おかあさんもそれいじょうと（止）めることができませんでした。

きよ しゅんはいしゃになるために、いっしょうけんめいべんきょうしました。人のびょうきをよくなおすことでゆうめいなしやたちをたずねて、ちよくせつならうこともしました。日ごとにどりよくしたきよ しゅんは、ついにいしゃのしけんにごうかくしました。

口演 活動内容



お話を聞かせる

“おかあさん!ぼくもやっといしゃになりました!”

“おやまあ!よくやった、よくやったね!”

おかあさんも、とてもとてもよろこんでくれました。

いしゃになったきょ しゅんは、よりいっしょうけんめいにべんきょうしました。びょうきにかかってくるしむ人が、いなくなることをねがいました。そんなきょ しゅんのことをわかってくれる人びとがじょじょにふえて、とうとう、王さまがすむきゅうていで、はたらくことになりました。

そんなある日、王さまがきゅうていのいしゃたちをきゅうによびました。

“王子がとてもいたがるのだ。このびょうきをだれかなおせるのか?”

二番目の王子は、からだじゅうにあかい水ぼうができて、ひどくねつが出ました。ちかくにいる人にうつるかもしれず、へたをすると、しんでしまう、てんねんとう（天然痘）という大きなびょうきでした。みながかかってしまうので、ころよくまえに出るいしゃがいませんでした。王子になにかあれば、いしゃが大きなばつをうけるところだったのですね。

みながためらうところ、きょ しゅんがまえに出ました。

“わたしがかならず、王子さまをなおしてみせます。”

口演 活動内容



お話を聞かせる

王さまは、そんなきょ しゅんのをぎゅっとつかみました。

“そうか。かならずなおしてくれ。”

きょ しゅんは、その日からひるもよるも王子のそばにいて、めんどろをみました。いいくすりをまごごろをこめてつくり、まいにちあたえました。ねつを下げるために、やすまないで王子のからだをぬのでふきました。また、王子がねるときもみまもって、だいじょうぶなのかをきろくしました。こんなきょ しゅんのとりよくのすえに、王子のからだはじょじょによくなっていきました。ねつは下がり、あかい水ほうもすこしずつなくなりました。

“からだがだいぶかるいな。もういたくもないし。”

王子はあかるいかおで、きょ しゅんにいいました。

“ほんとうによかったです。もうすこしだけ、がまんしてください。”

きょ しゅんは王子のびょうきがきれいにすべてなおるまで、できるだけのことをしました。王子もそんなきょ しゅんをりかいし、きょ しゅんのいうとおりにしました。

“ほほほ。王子のびょうきが、きれいにすべてよくなったな。”

王はとてもよろこんで、きょ しゅんをほめました。

口演 活動内容



お話を聞かせる

“きみが王子をたすけた！ありがとう！”

王さまはそのあとに、きょ しゅんに大きなかんしょくをあたえて、いつもちかくにおきました。しかし、きょしゅんはきゅうていのしごとだけではなく、まずしくてたいへんなたみたちのめんどろみるしごとも、さぼりはしませんでした。

“わたしが、たみたちのためにできることは、なんだろうか？ちよくせつすべてを見ていなくてもだ。”

きょ しゅんは、だいぶかんがえぬいたあとに、じぶんがしている、すべてのものごとをきろくすることにしました。どこかがいたい人たちのために、たすけになるようなじょうほうをこまかく書きのこそうとおもったのです。かんじゃをみるように、すべてのまごころところをこめて、一文字一文字、書いていきました。ながいじかんをかけて書いたこの本が、まさに今日までも広くいられている‘とういほうかん（東医宝鑑）’だといいます。

口演 活動内容



韓国文化, 韓国語を紹介する

みなさん、おばあちゃんがしたお話をよくききましたか？小さいきょ しゅんは大きくなって、どんな人になりたかったのですか？

そうですね。いたい人のびょうきをなおす、いしゃになりたかったのです。きょ しゅんは小さいときから、たいへんな人をたすけられるやさしい子どもでした。けがをしたこいぬをいえにつれてかえり、ちりょうをしたりもしました。みなさんは、どんな人になりたくて、どんなしごとをしたいですか？‘-’になりたい’というひょうげんをもちいて、いちど話してみてください。

きょ しゅんは王さまがすむ、きゅうていではたらくことになりましたが、きゅうに2番目の王子がびょうきにかかりました。なんのびょうきにかかりましたか？

はい。てんねんとう(天然痘)というこわいでんせんびょうです。このびょうきは、ほかの人にうつるかもしれず、みながためらうびょうきでした。きょ しゅんは、いいくすりもつくって、王子のからだをふいてあげて、まごころでちりょうしました。このようなこわいでんせんびょうにかからないようには、おともだちもいつもてをきれいにあらって、けんこうになるしゅうかんをやしなってください。ちょうせん(チョソン)じだいのこわいでんせんびょうである、‘てんねんとう(天然痘)にきょうみがあるおともだちは、‘どらんどらん お話ホームページ’でくわしいないようをしらべてみてね！

口演 活動内容



お話を整理する

みなさん、おばあちゃんと“いしゃ(医者) きょしゅん(ホ・ジュン)”のお話をいちどまとめてみましょうか？

きょしゅんは小さい時から、いのちをたいせつにおもい、こいぬをちりょうしたあとにいしゃ(医者)になろうとけっしんしました。そのあと、きゅうていのいしゃ(医者)になり、王子のびょうきをなおして、いたいたみたちがすぐによくなるように、じぶんのけいけんをきろくした‘とういほうかん(東医宝鑑)’という本も書きました。みなさん、かぞくやともだちなどしゅういの人びとがいたい時、あたたかいことばでなぐさめてあげられますよね。



お話のあとのうたをうたう

そしたら、お話のおわりのうたをいっしょにうたいながら、おばあちゃんとあいさつします。お話のおわりのうた、はじまり！

🎵 いち にい さん し！お話のはじまり！ わたしたちみんなが たのしく、よくきいてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？
いち にい さん し！ しゅっぱつします。パンパン～



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、ごあいさつ！

みなさん、つぎのうつくしいお話のおばあちゃんであいましょう。
さようなら！